

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学校・対象学年

- ① 美濃加茂市内公立学校（組合立学校を含む）〔小学校8校（1校は小学校6年生の在籍がないため未実施）、中学校3校〕
- ② 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査〔小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語、英語「話すこと」〕（※英語は3年に1度程度の実施）
- ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

(4) 調査日 令和5年4月18日（火）

（※中学校英語「話すこと」調査は、文部科学省が指定する一部の学校が当日実施校として令和5年4月18日（火）に実施し、それ以外の学校については期間内実施校として令和5年4月19日（水）から同年5月26日（金）までの間に実施）

2 美濃加茂市における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の分析の概要

- ・市の平均正答率は、小学校「国語」「算数」、中学校「国語」「数学」「英語」において国をやや下回っている。
- ・令和4年度の標準化得点（全国の平均値を基準（100）として市の得点を算出した数値）と比較すると、小学校「国語」「算数」はやや上昇、中学校「国語」はやや下降、中学校「数学」は同等である。また、中学校「英語」は前回実施された令和元年度と比較してやや上昇している。
- ・調査項目ごとに全国と当市を比較すると、小学校・中学校ともに、よくできている項目と課題となる項目はほぼ一致している。

【国語】

- ・小学校では、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する力が身に付いている。
- ・中学校では、事象や行為、心情を表す語句について理解することができている。
- ・小学校・中学校ともに、情報と情報の関係を理解すること、内容を整理して必要な情報を見付けることに課題がある。

【算数・数学】

- ・小学校では、伴って変わる二つの数量の関係について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができている。

- ・中学校では、数と整式の乗法の計算をすることができている。
- ・小学校・中学校ともに、問題解決の方法、判断の理由、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することに課題がある。

【中学校 英語】

- ・日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることができている。
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取ったり、短い文章の概要を捉えたりすることに課題がある。

⇒課題解決への手立て

- ・情報の関係を様々な方法で整理する活動を意図的に位置付けることで、「情報と情報の関係を理解する力・内容を整理して必要な情報を見付ける力」を育む。
- ・「根拠を問う」「解釈する」「統合する」「発展する」問いを促すことで、確かな知識や技能の定着を図る。
- ・単元や本時の目標を具体的に分析して指導内容を明らかにすると同時に、個に応じた学習過程や支援を大切にして指導することで、さらなる学力の向上を図る。

(2) 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査結果の分析の概要

- ・小学校・中学校ともに、起床時刻や朝食の摂取などの家庭生活は安定しており、ほぼ全国平均並みである。小学生と比較して、中学生では朝食の摂取率や就寝時刻が不安定になる割合が若干高い。
- ・「人が困っているときには進んで助ける」、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と考えている児童生徒がいずれも90%以上と高く、思いやりや仲間を大切にできる心が育っていると言える。
- ・「先生は、よいところを認めてくれる」「困りごとがあるときに、先生に相談できる」の項目が全国や県に比べて高く、教師と児童生徒の良好な関係が築かれていると考えられる。
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと考えている値が小学校・中学校ともに全国および県の平均を大きく上回っており、外国籍児童生徒が多く在籍する美濃加茂市の状況が背景にあり、長く多文化共生教育を推進してきている成果と考えられる。
- ・学習面では、小学校において読書離れの傾向がみられ、学校図書館や地域の図書館の利用度も低くなってきている。読書だけでなく、教科学習においても文字から必要なことを読み取る力が求められており、改善が望まれる。中学校では「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒が多く、「読書が好き」な生徒も全国に比べ多い。新聞を毎日読む生徒の割合も増加してきている。
- ・小学校・中学校ともに、平日、週末を問わず、学校の授業以外で学習塾等での学びを含めた学習時間が全国と比べて少ない傾向がみられる。小学6年生では、1時間～2時間の学習に取り組む児童が多く、2時間以上の学習に取り組む児童の割合は低い。中学3年生では、学習に取り組む時間が1時間、2時間、3時間以上のいずれの項目においても全国と比べて低い状況である。
- ・国語、算数（数学）、英語の教科学習に対する意識では、教科に対する関心や学習が大切だと考えている割合が、小学校では算数、中学校では英語に対して全国と比べて低く、学力調査の結果にもつながっていると考えられる。授業の中で「わかる」「できる」を実感できるよう指導改善に努めるとともに、それを補完する家庭学習の充実にも取り組んでいく必要がある。
- ・ICT（情報通信技術）の活用では、小学校は、授業の中での活用は全国よりも高く、「週3回以上」と「ほぼ毎日」を合わせて約75%となっている。中学校においても約55%と、小学校に比べると割合は低いもの

の、全国に比べると小学校・中学校ともに割合は高く、ICT 機器を活用した授業実践が進んでいると考えられる。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ◆各小・中学校において、自校の結果を分析し、それについての向上策を考える
- ◆児童生徒のつまずきの傾向をもとに、確かな学力が身に付く授業や自己肯定感を高める生活の充実を図る